

研修報告書

令和6年2月

産業厚生常任委員会

- 1 研修会概要・・・・・・・・・・・・・・・・P1
- 2 委員会としてのまとめ・・・・・・・・P1
- 3 各委員報告書・・・・・・・・・・・・P2～P10

1 研修会概要

- (1) 日 時：令和6年2月28日(水) 午後1時～午後3時30分
- (2) 場 所：加東市役所5階 第1委員会室
- (3) 講 師：スマートアグリコンサルタンツ合同会社
代表/CEO 渡邊智之氏
(一般社団法人日本農業情報システム協会代表理事/会長)
- (4) テーマ：食と農の未来を切り拓く 農業DX
～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～

2 委員会としてのまとめ

時代の最先端のお話を聞くことができたのが非常に良かった。

日本全体で農業者は、毎年8万人から10万人が減少しているということであり、農業者が稼げる農業を構築していくことが重要で、儲けなければ若い人も増えないという言葉に納得できた。

農家の高齢化や後継者不足の解消には農業DXの積極的な導入が、今後の農業には欠かせないものだと感じる事ができた。また、農業のDX化を通して各農家が経営としての意識を強く持つことの重要性、そのためのデータ蓄積・情報武装し、従来の勘と経験を客観化する技術の継承を可能にして、持続可能な農業にしなければならないこと。そして地域を守るためにも、持続可能な農業、稼げる農業を常に意識することの重要性を加東市の農家にどのように啓発していくかが課題である。



3 各委員報告書

研 修 報 告 書

産業厚生常任委員会 委員長 小 紫 泰 良

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日 時	令和6年2月28日（水） 午後1時～午後3時30分
場 所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	<ol style="list-style-type: none">1. スマート農業について2. スマート農業の現在位置と利活用状況3. なぜ、情報武装が必要なのか4. 匠の知識の形式知化に向けた動き5. フードバリューチェーンにおける ICT、LOT、AI の利活用6. 次世代食・農情報流通基盤 <p>・日本全体で毎年約8万人～10万人の農業者が減っているということで、現在の従事者は、約120万人程度ということであり、危機感を覚えた。</p>
感 想	<p>・「農業をデジタル技術で、かっこよく稼げて感動があるものに」という先生のお話があったが、確かにそのように出来れば、農業者が増えてくる。大変難しいことであるが、どのようにすれば、そのようにできるのか考えないといけない。一歩先を行っている先進地研修を多くこなすことにより、進むべき道のヒントがあるのではないかな。</p> <p>・「農業を主産業とする自治体は農業DXへの積極取組が地域活性化の鍵」ということであったが、確かに、自治体が先進地の事例を研究することにより、農業者の中に農業DX化できる人材が育成できるのではないかな。</p> <p>・今後もこのような研修会の開催で先進事例を勉強することが必要であると思った。</p>

研修報告書

産業厚生常任委員会 副委員長 廣畑 貞一

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日時	令和6年2月28日（水） 午後1時～午後3時30分
場所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	<p>*スマート農業を目指すために</p> <ul style="list-style-type: none">・農業を趣味でやるのでは未来は見えない。・作成者からビジネス思考への転向・変容をすべきである。・農業を主産業とする自治体は農業DXの積極的な導入を。・「農業は儲からない」から農業は素晴らしいビジネスと転換するためには「一円でも多く儲ける」ことのできる農業ビジネスを目指すことが重要である。これを目指すには「経験と勘だけの農業は「スマート⇒カッコイイ！」農業産業にならない、これには情報技術をフル稼働しなければならない。
感想	<p>*農業エンジニアの育成</p> <ul style="list-style-type: none">・農業エンジニアが開発、導入する技術により労働力不足を補うことが可能となる。・新しい農業ビジネスモデルの創出の仕組みを作る。・農業エンジニアにより効率的で持続可能な農業を実現させ、活躍させる。・スマートな職業名「ファームビジネス・ヒューマンズ」と呼ばれることが世界に未来に農業が拡大できる。 <p>*農作物の生産からビジネスマンへの思考変容が緊急課題</p> <ul style="list-style-type: none">・農業エンジニアが新たな技能の開発や情報の収集にDXの導入を積極的に推進すること。 <p>あらゆる農業産業の課題解決に向けて 「行政と議会」とで仕組みづくりをすること</p>

研修報告書

産業厚生常任委員会 委員 小川 忠 市

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日 時	令和6年2月28日（水） 午後1時～午後3時30分
場 所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	<ul style="list-style-type: none">・農業を主産業とする自治体は農業DXへの積極的な取組が地域活性化の鍵・農業は儲からないと勝手に決めつけている。・農業の一番の課題は<u>試行錯誤や創意工夫が収益に反映されない。</u>・今日すぐに結果が出るものではない。 ➡<u>データの蓄積が重要</u> <p>●農業DXとは・・・</p> <ul style="list-style-type: none">・農業や食関連産業の分野において、デジタル技術の利活用により、生産から消費に関わるあらゆる人々の生活を良い方向に変化させる・情報技術をフル活用して効率化することだけでなく、営農のリスクを最低限にし、最大限の収入を得ることと同時に、自社ならではのノウハウを確立し、ブランド化や事業承継に役立てること。 <p>▶それにはビジョン（夢を持つこと）が不可欠</p>
感 想	<ul style="list-style-type: none">・ 5年後、10年後の自分の農業像や事業承継イメージがあること・ どんな人がスマート農業に向いている？ ➡夢を持っている人。逆に言えば、自分の体が動かなくなるまで、もしくは農機が壊れるまで農業をやる！という方には、残念ながら提供できる「スマート農業ソリューション」は存在しない。・ IT機器等を経営に利用しようと思わない理由（82.8%）<ul style="list-style-type: none">ITに関する知識が少ない（42.4%）経営規模が小さく必要がない（40.4%） <p>▶なぜ情報武装が必要なのか？</p> <p>【理由その1】リスク発生時の責任の所在が不明で、農家が全責任を負う可能性があるから</p> <p>【理由その2】諸外国から安心・安全で安価な農産物が入ってくるから</p>

➡蓄積したデータを活用し情報武装して、リスクから身を守る！

- ・生産技術だけでなく、経営、ITにも精通した次世代農業生産者を育成し、「スマートファーマー」に認定する。

その地域ならではの資格として、全国から将来の移住候補者を呼び込む

●「スマートファーマー」に必要な意識7条

- 1 出来たものを出来た時に売るではなく、ビジネスとして最大限の収入を得るという意識。
- 2 従業員個々の成長やモチベーション維持を目指し、組織としての最大効果を出そうという意識。
- 3 営農に関わるあらゆるリスクを予見し、歩留まりの向上、生産ロスを削減する意識。
- 4 センサー等から蓄積されたデータを駆使し、自分達ならではの生産方法を確立し、マニュアル化する意識。
- 5 生産期間中のコストを常に管理し、コスト増大リスクを事前に回避する意識。
- 6 地域の農産物は出来るだけ地域で消費する意識。
- 7 未来の人々の事も考え、自然環境配慮をする意識。

農家の高齢化や後継者不足の解消には、農業DXの積極的な導入はその効果からして今後の農業には欠かせないものだと感じた。しかし、現の加東市の農業の現状からして農家にどのようにして意識改革していくのが課題かと思う。

研修報告書

産業厚生常任委員会 委員 岸本眞知子

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日時	令和6年2月28日(水) 午後1時～午後3時30分
場所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	○内容 ・スマート農業は、ロボットやAIに頼り切ってしまうにはなるが、生産者を成長させる農業にはならない。 ・農業は、経験と勘に頼っているところがあり、ロボットやAIに任せ放しにできる業務は、一握りである。 ・現在の農業高校や大学は、就農が前提でのカリキュラムで構成されている。大規模化が進んで従業員を多く雇うような農業経営の教えにはなっていない。
感想	・ ・ ・ ○感想 全国的に農家は、半端な農地を持っている。大半が休耕田にするか、耕作を人に依頼しているのが現状である。第一次産業である農業故に、先ず国をあげて農地から整理することが前提である。僅かな補助金で延命しても、瀕死な状態は変わらない。

研修報告書

産業厚生常任委員会 委員 大畑 一千代

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日時	令和6年2月28日(水) 午後1時～午後3時30分
場所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	<p>◇ スマート農業とは 自動で農作業ができるとか大規模農家のためのものではなく、農業や食関連産業の分野において、デジタル技術の利活用により、生産から流通消費に関わるすべての人の生活をより良い方向に変化させるもの。</p> <p>◇ スマート農業の現在位置と利活用状況 GPSによる農業機械の自動化、センサーによる遠隔監視、スマホ等による作業管理だけでなく、勘・経験の客観化により栽培管理を改善し、リスク回避・後継者への技術承継を円滑にする。</p> <p>◇ 情報武装の必要性 栽培履歴などをしっかりと情報蓄積しないとリスク発生時の責任をすべて農家が負うことになりかねない。外国からの安価な農産物に対抗できない。</p>
感想	<p>◇ 匠の知識の形式知化に向けた動き 経験とデータを照らし合わせ、クオリティを維持し、コストを抑え、収益の最大化を目指す。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 出来たものを出来た時に売るのではなく、ビジネスとして最大限の利益を追求しようとする意識を持つ。・ リスクを予見し、生産ロスを削減しようとする意識を持つ。・ 蓄積されたデータから自分ならではの生産方法を確立し、マニュアル化する意識を持つ。・ コスト意識を常に持つ。・ 自然環境に配慮する。

農業のDX化を通して、各農家が、経営としての意識を強く持つことの重要性、また、そのためのデータ蓄積・情報武装し、従来の勘と経験を客観化し、技術の承継を可能にし、持続可能な農業にしなければならないことを、改めて教示いただいた。

農業機械の自動化には経営規模や農地の環境、費用対効果を十分検討し、身の丈に合った導入が必要なことは言うまでもない。

地域を守るためにも、持続可能な農業、稼げる農業を常に意識することの重要性を、加東市のすべての農家にどのように啓発するかが大きな課題であると思う。

研修報告書

産業厚生常任委員会 委員 大城戸 聡子

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日時	令和6年2月28日(水) 午後1時～午後3時30分
場所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	<p>時代の最先端のお話を聞くことができたのが非常に良かった。</p> <p>スマート農業とは、マニュアルがない農業という仕事の</p> <ol style="list-style-type: none">1. 業務フローを明確にし、2. それを標準化し、3. 確立させ、 <p>従業員を使用し、営利を生み出す農業法人を作ることをめざすものであることがよく理解できた。</p> <p>しかしながら、温暖化で年々気候が刻々と変化している現在、十分なデータを集めるまでにかかる時間を考えると、危惧される面が多々あるように感じる。ハウスなら、まだしも露地物は今後スマート農業にしても困難局面に立つのではないかと思われる。</p>
感想	<p>そして今回の講演で想定されていたのが、どちらかといえば水稻以外の農業寄りに感じられたので、これを稲作にどう活かしていくのかが当市においては課題となるであろう。講師の先生に「議員として何をすれば良いか」という大胆な質問をされた方がおられたが、それを考えるのが今回の講演会を開催した委員会の目的ではないかと、個人的に思う。そこで官・民・農のトランスフォーマーである渡邊先生は、市議会(行政の傍聴を含む)の講演会であることより、答えとして補助金のことをおっしゃられた。が、この場ではそれが第一選択となるのは無理もないことだろう。</p> <p>どんなことに関しても、DXは世代間の意識の差を埋めるのが必ずついてまわる。そこでおいてきぼりにならないように、これからも新しい・正しい情報を入手し、吟味するよう精進したい。</p>

研 修 報 告 書

産業厚生常任委員会 委員 橋 本 匡 史

研修テーマ	食と農の未来を切り拓く 農業DX ～農業をデジタル技術でかっこよく稼げて感動があるものに～
日 時	令和6年2月28日（水） 午後1時～午後3時30分
場 所	加東市役所5階 第1委員会室
研修内容	目的：産業厚生常任委員会研修 山田錦をはじめ農業産業の高齢化や担い手不足や農業者の所得向上などに様々な課題がある加東市において、農業産業の将来をどう取り組んでいくか見識を深めるため。 内容；1. スマート農業について 2. スマート農業の現在位置と利用状況 3. なぜ情報武装が必要なのか 4. スマート農業のこれから 5. 匠の知識の形式知化に向けた動き
感 想	所感：スマート農業は、デジタル技術の利活用により、生産者から消費にかかわる人々の生活を良い方向に変化させえるのもで、楽しい農業の目指すもの、そのために必要な日々のデータを集めることから重要。AIやICT技術の活用という技術的なもの以外にも、経験やノウハウなどの日々の情報のデータ化が必要であり、ICT技術だけではダメである。農業産業者が稼げる農業を構築していくことが重要。儲けなければ若い人も増えないとの言葉に納得しました。各農家が目指すゴールを実現するための経営戦略をつくること、それとブランド化に取り組み信頼や差別化された農作物にしていくことも有効である。農業者は毎年8万人から10万人が減少しており10年先には農業生産者がゼロになってしまう推移であると聞き農業の衰退に対して加東市としても手を打たなければなりません。農業者だけではなく、あらゆる関係者がこれまでの考え方や発想そのものをトランスフォーメーション（変革）するということだと思います。このために行政の積極的な支援を行われるように、今回の講演で学んだことを生かしていきたいと思います。

